

# 春闘方針を決定

個別賃金要求 30歳27万

高卒直入到達目標 35歳31万

支持・協力政党は立憲民主を基軸に連合が支援する政党

Webライブ配信による本会場から安河内会長による  
困難を乗り越え 新しい時代に向かって  
新しいJAM運動を発展させよう！  
団結ガンバリ



JAMは1月19日に第37回中央委員会を開催した。高卒直入者所定内賃金の30歳到達基準27万円、35歳31万円水準など個別賃金要求を重視し、賃金実態を把握できない組合については、平均賃上げ要求基準として賃金構造維持分4500円に6000円を加え「人への投資」として10500円以上とする「2021年春季生活闘争方針」、「『立憲民主党』を基軸とし、連合が支援する政党を『JAMの支持・協力関係にある政党』に位置付ける」となどの議案を決議した。

首都圏など11都府県に緊急事態宣言が発出されている中、感染拡大防止策を徹底し、本会場の東京・港区「友愛会館」からWebで50カ所以上にライブ配信した。

中央委員は報告・各議案採決を「異議な

し」「挙手」「全員賛成」「反対あり」「保留あり」などのボードを画面上に掲げ議長が決議した。

安河内賢弘会長は「2021年春季生活闘争の労使協議がスタートする。言うまでもなく極めて厳しい交渉になる。個人消費はリーマンショックを超える落ち込みで、今回のパンデミックがいかに消費に直接打撃を与えたかが分かる。一企業が労働条件の引き下げで乗り切ろうとしても個人消費の回復には繋がらず、むしろマイナスである。厳しい状況は十分に理解しているが、今はそれぞれの労使が精一杯の努力をしていただく必要がある。パンデミック後の世界を見据えた議論をお願いする」などと呼びかけた。

参加は中央委員107人など、計204人。